学校だより　西丸子　１０月号

令和６年９月２７日（金）川崎市立西丸子小学校

「西丸子愛」に包まれて

川崎市立西丸子小学校　校長　筒井愛子

少しずつではありますが、秋の気配を感じます。９月 20 日(水)には、１年生と６年生が河原で虫捕りを楽しみました。そんな中、創立 70 周年記念事業が着々と進められています。昨年度立ちあがった記念事業委員会も、先日、４回目を迎えました。川島委員長をはじめ、委員の皆様方のご尽力で、計画が次々と具体化されています。また、教職員を中心に作成している副読本ですが、インタビュー等でご協力くださった皆様のおかげで、夏休み中に一気に進めることができました。主に３年生の授業で使用する副読本は、70 周年会議でもご意見をいただきましたが、なかなか費用が抑えにくいものです。内容が「地域」に特化していることから、他に需要がないためです。「写真データなどは、60 周年の時のものを利用することはできないか。」と探ってみましたが、「たかが 10 年、されど 10 年」です。町の様子はずいぶん変わっており、残念ながら再利用は難しく、結局、「地域学習には必要なものだから。」と、委員の皆様にもご了承いただき、新しい資料の収集に努めております。

そんな時、ある本の中で、「外国人が日本のこんなところに驚いた。」という記述を見つけました。いくつかの具体例の中で、私が「なるほど。」と思ったのは、「小学生の登下校の様子」と「校歌」に関するものです。まず、「登下校の様子」ですが、「保護者や地域の方々が、こんなに協力している国はない。」でした。各国の小学生の登下校と言えば、自家用車やスクールバスによる送迎がほとんどでしょう。日本の都市部のように狭い地域に大勢の小学生が住んでいるという状況自体、珍しいのかもしれません。また、もう一つの「校歌」ですが、日本で教育を受けている者からすれば、すべての学校に「校歌」があるのは当たり前のことですが、そうでない国もあるようです。記述には、「(外国人が) 日本の校歌を聴いて感動した。歌詞には地域の山や川、町のことが織り込まれていて、その場所を知らない人にも伝わる。そして、その歌詞はとても美しい。だから、そこで育った子どもたちの心には、故郷を愛する気持ちが育まれるのだ。」とありました。私はこれを読んで、すぐに、本校の創立 70 周年記念事業委員会の会議の場面を思い浮かべました。本校の地域の方々、PTA の OB、OG の方々、中には卒業生の方もおられますが、共通しているのは、「ここにある学校」を丸ごと大切にしてくださるお気持ちです。これは、世界の中でも珍しいくらいありがたいことなのだと、皆様への感謝の気持ちでいっぱいになりました。本年度、「プレ 70 周年」の 69 歳を迎えます。10 月２日(水)の「お誕生日集会」では、皆様の思いを子どもたちに伝え、心を込めてお祝いしたいと思います。

さて、現在、前期の総括として、学習面談を行っています。保護者の皆様、お忙し中お越しいただき、本当にありがとうございます。この面談は、学習状況をお伝えするための面談ですので、お子さんの生活の様子なども気にされていることとお察ししますが、15 分間と時間も限られていますので、ご理解くださいますよう、よろしくお願いいたします。